

## 11/20 エレミヤ書 7章 1-8節 「神様に立ち返ろう！」

小池 宏明 牧師

今日は、子どもたちの健やかな成長を願って、子ども祝福式を執り行う礼拝をささげる。今日の聖書のお話は、ついに南王国ユダが滅びるという知らせを伝えている。この事は悲しく、残念なことだが歴史的事実である。私たちは、過去の歴史から多くのことを学ぶことができる。どうして、主の民は国を失うことになったのだろうか？

### \*主の御ことばを伝え続けるエレミヤ

主なる神様は預言者を遣わして、主の民が、主のもとに立ち返るように呼び掛け続けていた。

南王国ユダが滅びる三代前のエホヤキム王の時代、預言者エレミヤはエルサレム神殿に集まってくる民に語っている。「イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。あなたがたの生き方と行いを改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたをこの場所に住まわせる。」(7:3) 生き方と行いを改めるということは「御ことばを聞くだけではなく、信じて従いなさい」と求めているのだ。ところが、エホヤキム王は悪い王様で、エレミヤが神の言葉を書いた巻物を燃やしてしまった。彼の態度は、ますますわざわいを引き寄せ、王国滅亡の時を速めた。

ついに、南王国ユダの最後の王ゼデキヤの時代になった。彼の心は不安で一杯だった。それは、彼の前のエホヤキン王が神殿や宮殿の財宝と一緒にバビロンに連れて行かれたからだろう。ゼデキヤ王はひそかに預言者エレミヤに王国の未来について聞いてみた。エレミヤを通して主なる神様はゼデキヤに降参しなさいと勧めた。(38:17, 18) ところが、ゼデキヤ王は、バビロン軍が攻めて来た時に降参しないで逃げた。主の言葉に従わなかったのだ。こうして、わざわいを招くことになった。ゼデキヤ王は捕まって多くの民と共にバビロンに連れて行かれてしまった。こうして、南王国ユダは滅亡した。しかし、憐れみ深い主は、回復の道を用意しておられた。

### \*主に立ち返れ

南王国ユダが滅んだ原因は、はっきりしている。王と民が、主なる神様の語りかけを無視して自己中心に歩み、偶像の神々に仕えて生きたからだ。私たちは、もう一度、自分が本当に主なる神様の御ことばに従っているのかどうか、自分自身に問いかけるときを大切にしよう。